

緊急
特集!!

芥川賞作家・津村 記久子先生が ハローワークの良さを語る!



小説家

津村 記久子先生

1978年大阪府生まれ。小説家。大谷大学文学部国際文化学科卒業。会社勤め 失業 会社勤めを経て、2005年『マンイーター』(改題『君は永遠にそいつらより若い』)で太宰治賞、2008年『ミュージック・プレス・ユー!!』で野間文芸新人賞、2009年『ポトスライムの舟』で芥川賞、2011年『ワーカーズ・ダイジェスト』で織田作之助賞受賞。直近では、2013年『給水塔と亀』で第39回川端康成文学賞受賞。他の著書に『ウエストウイング』(朝日新聞出版)など。

すでに、津村記久子先生のことをご存知の方もいらっしゃると思いますが、私が津村先生の本に出会ったきっかけは、実は、大阪労働局長 中川局長からの一言でした。

「芥川賞作家の方が、この対談本『ダメをみがく』“女子”の呪いを解く方法」の中で、大阪のハローワークでのお話を取り上げてくださっていて、非常に良い印象を持って頂いている。こういう本について、職員・相談員は知っているの？」

このお話がきっかけで、出版社へ連絡し、大阪職安月報に掲載すべく津村先生への取材をお願いするに至ったわけです。

この「ダメをみがく」“女子”の呪いを解く方法」は、『草食男子』という言葉が創られたコラムニスト 深澤真紀先生との対談本で、仕事編と生活編の2編構成。その仕

ダメをみがく

～ “女子”の呪いを解く方法～

本書は、日経ウーマンオンラインで連載された『働き女子に贈る“ダメ力”のみがき方』(2012.10月～2013.3月)を加筆修正し、未公開対談が加えられ、単行本化されたものです。



事編の中で、津村先生がハローワークに行かれた時のお話が出てきます。

津村先生は、新卒で入社した会社でパワハラに遭い、9ヶ月で退職。雇用保険の受給手続きや職業訓練をきっかけにハローワークへ来所され、Mさんという

方のカウンセリングを受けられました。対談本の中でも『Mさんに会ったことですごい救われました』。あの人は恩人です」と記載いただいています。今から10年前の、たった1度きりのカウンセリングですが、今でも名前も顔も覚えていらっしやるとのこと。(そのお言葉には本当に驚きました!)

その後、ハローワークの紹介で就職された2社目の会社は、10年半勤務されました。その間、作家とOLという「2足のわらじ」での生活。昼はOL、夜は執筆活動にいそしまれ、2009年に芥川賞、その他にも数々の賞を受賞されました。現在は、10年半勤務された会社も退職され、執筆活動に専念されています。今後、また再就職したいと思っいらっしゃること。(これにも大変驚きました!)

取材は、対談本の中で触れて頂いていたハローワークに関するお話を掘り下げる形で行いましたが、その他にも津村先生の就活時のお話や、対談本に記載されていないハローワークについてのお話もたくさん伺いました。

今回の特集記事は、取材中に津村先生から紡がれた言葉をキーワードに、1時間半の取材を抜粋して、皆様へお届けしたいと思います。

1番心に響いたMさんの言葉

1番心に響いたMさんの言葉って、どんな言葉ですか？

「私はここに居るから、また何かあったら来なさい。」って言うてくれたのがすごく大きかったです。行かなかったですけれどね。今も行きたいなと思いますもん。(笑)

1社目を辞めた時、本当に「今後、仕事に就けないかもしれない…」と思うぐらい凹んでたんです。心を折られたというぐらい、すごい辛い思いをしたんですけれど、Mさんのカウンセリングにかかってホントによかったです。私、すごい助けられたんですよ。カウンセリングは1時間やったんで

すけど、私が「無理です無理です」って言うても、Mさんは「大丈夫、できますよ」って言うやりとりで。適性検査の結果を見て、「こういう仕事に向いてると思うわよ」「無理です」「いや、適性検査の結果でも、そんな無理なことないですよ。大丈夫。」「いや、無理です」「無理やったらまた来てくれたらいいよ」って。すごい心配してくれたんですね。

Mさんは60歳ぐらいのおばさんやっただんですけど、Mさんの言葉って、自分と違う世代の、働いてきた人の言葉で、親でも親戚でもない外部の人の言葉。

同じ失業者同士とか、同年代の友達としゃべるとかじゃなくて、全然自分とカテゴリーが違う、外部の人の励まして大きいですよ。

ゲーム感覚でのモチベーション管理

初めて失業した10年前、ハローワークに通っていた時に、「訓練受けたい」って言ったら、「あのおじさん達に相談してきて」とフロアの隅を指示されて、おじさん達のところへ行ったら、「こういう説明会があるから来てみて」と。言われるがままに説明会に行ったら、「若い子はカウンセリングもしてあげる」。それがMさんのカウンセリングでした。

何かゲームみたいじゃないですか。

「こういうことなら、あそこで話を聞いてきたらいいと思うよ」 落ち込んでいたのが、ちよつとマシになりました。

「じゃあ、あの人に話聞いてきて」「次はあの人」って。ゲームの『村人に話を聞いて に行ったら、このアイテムがもらえる!』みたいな。(笑)

「今日は訓練申込できません」って言われて、それで終わることはないですよ。ね。「次は 日から申込できます」とか、「よかつたら話だけ聞きます?」とか、何か案内してくれる。

そうやって、色んな人に話を聞き回っているうちに、「仕事、できるかな。やってみよかな。」っていう気になってきた。

次の方向を教えてください、その人の予定を埋めることを、ハローワークやってやってくれるわけじゃないですか。(あべの・わかものハローワークのセミナー予定表を見ながら)「こういうセミナーを 日にやっていますよ」とかいうので、予定って埋めていける。

白紙の手帳より、決まった時間に行くところ、通うところがあるのって、モチベーションが全然違うんですよ。

モチベーション管理って、1人じゃできないじゃないですか。仕事として管理してくれる人がいるってありがたい。

誰かとしゃべって仕事を探す方が

絶対いい

津村先生は、再就職を考えていらっしやるということですが。

ずっと家にいるのって、しんどいんですよ。いつまで小説が書けるかも分からないです。

仕事を探す時も、家に閉じこもってインターネットで探すより、外に出て、誰かとしゃべって仕事を探す方が絶対いい。

家で就職出来るか出来ひんか迷ってるくらいなら、ちよつとでも外に出た方がいいと思うんですよ。家で情報検索するのでもいいけど、家でやるなら夜に探せばいいし。お昼はハローワークへ来て、誰かとしゃべる。就職活動の相談ができるっていうのは、本当にありがたいことやと思いますね。

失業は1人じゃ治せない

失業は病気みたいなもんだと思えばいいんですよ。ハローワークで「仕事の介護」をしてもらいに行く。自分で自分の介護をしようなんて無理じゃないですか。失業中は、『自分は要支援、要介護だ』と思った方がいいと思うんですよ。

そういう状態になれば、とにかくヘルパーさんにかからなあかんわけですよ。病気になったら、とにかく医者にかからないといけない。

1人で失業して、自分1人だけで探しても、しんどいですよね。失業は1人じゃ治せないですよ。

名言ですね。これは是非とも掲載させてもらいます。(笑)

病気でもそうだと思うんですけど、誰かに「あの薬がいいよ」って教えられてドラッグストアで買うより、医者にかかって、その薬を飲んだら一発で治ることってあるじゃないですか。

処方箋があるってことですね!

そうですね、処方箋ですね。こういう感覚でハローワークに相談しに行けばいいと思います。

「あなたのこと覚えてるわよ」

「あなたのこと覚えてるわよ」って言うてもらえるだけで、全然違いますよ。「あなたのこと、全部知ってるわよ」「支えてあげるわよ」っていうんじゃないか、あなたのこと覚えてるわよ、大変だったのよね」って言うてもらえるだけで、全然違う。ハローワークの方から

したら、たくさん扱つ利用者の1人でも、毎回顔を忘れられてるんじゃない、顔を見たら「あ、あなたね。どうもどうも。」っていう関係も、利用者にとっては支えになると思いますがね。

なるほど。対談本の中にも出てきますが、『毎日行くコンビニの店員さん』みたいな、そんなに話しかけないけど、気にかけてくれている、っていうような空気が、ハローワークでも大事なことですね。

そういう関わり方をしてくれる人が「がんばって働きましょうね」って言うてくれたら、「じゃあがんばって働く」って思えると思うんですよ。

「私はあなたに就職してもらおうのが仕事だから」っていうふうな接し方じゃなくて、「そりゃハローワークの方からすれば、全部仕事やし、サービスなんですけど。」

褒められた経験を持って会社へ行く

大阪の別のハローワークで、職務経歴書を見てもらったんですけど、その職務経歴書を「きれいですね。素晴らしいですね。」ってすごく褒められたんですよ。職員さんもすごく良い人でしたし、嬉しかったですね。私達は、『職務経歴書を褒められた』っていう経験を持って、

次の会社に行くわけですから。

やっぱり「人として応援してるよ」という感じで言ってもらえたり、マニユアル的な対応ではなく、イレギュラーな言葉をかけてもらえると、やっぱり違いますよ。

第3者機関・ハローワークの濾過機能

私が新卒で入った会社は「ブラック企業」ではなかったと思います。個性としてかなり偏った人がいただけで、そういう人が会社に溶け込んでいるので、「どこまでが倫理として有効なのか」反しているのか』の見極めが重要ですね。

とにかく色々な人に話してみても、情報共有しながら、その会社が「ブラック企業」という判断になるのかどうか。ハローワークでは、ほんまにヤバイ「ブラック企業」の求人は濾過してくれてるっていうのがある。ハローワークという第3者を通してますもんね。

今、私がこれから仕事を探すとしたら、「求人雑誌を見て探すか、ハローワークで探すか」っていうことを選ぶとすると、やっぱりハローワークに来て探しますね。だってハローワークは求人情報誌の100倍ぐらい、サポー

トしてくれるでしょ。

当然ですけど求人情報誌って求人が載ってるだけですし、結局自分が体当たりしていくしかないじゃないですか。

それはそれでいいんですけど、働くことに関して、雇用する側と、雇用される側の間に入ってくれる第3者機関として、ハローワークの存在は安心感があるし、すごい大事ですよ。

1番ありがたい公務員さん

本当にお世話になって、ありがとございます。ハローワーク職員・相談員さんには、ものすごいお世話になってますよね。ほんとにありがたい人達です。

いろんな公務員がいらつしやる中で、1番ありがたい公務員さんじゃないですか。ほんま思いますが、すごい献身的にやってくれはるし。私も実際、過去にそつやつてもらったし。1番自分が接することの多い公務員さんだと思います。

いろんな職の紹介の媒体があるけど、不安に思いながら一人で探すよりは、求人検索パソコンで求人票を見て、あれだけたくさんある求人票の中から何枚かを自分で選択して印刷して、「どれがいいですか？」って聞ける相手がいるって、ほんとにありがたいことだと思います。

最後に、ハローワークの職員、相談員へのメッセージをお願いします。

職員さん、相談員さんへのメッセージは、頼りにしてますのでがんばってください、とそれに尽きます。ハローワークにお世話になったなと思ってる方もいっぱいいると思うし、ハローワークを支えている方もいっぱいいると思いますので。私もこれから仕事探すと違いますので、ものを書くのは全然苦にならないので、私に向いているような仕事があれば是非よろしくお願いします。(笑)

・・・あとがき・・・

まさか芥川賞作家の方に、取材を快諾して頂けるとは思ってもみませんでした。トントン拍子で話が進み、あべの・わかものハローワークの協力を得て、あべの・わかものハローワークセミナールームにて津村先生への取材を敢行しました！この取材を通じて、ハローワークのあるべき姿を再認識すると同時に、津村先生の力強いメッセージに勇気づけられました。本当に嬉しい＆楽しい取材となりました。

生。

時間延長してまで『ハローワークの良さについて』の熱弁をふるってくださった津村記久子先生。

お忙しい中、貴重なお話を、本当にありがとうございました！